

第3回 井原市立小・中学校のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和8年5月22日（金）14：00～16：10

場 所 井原市役所4階 大会議室

出席者 委員：井原中学校区を除く19名

事務局：8名

事務局（司会）：

定刻となりました。

ここで資料の確認をさせていただきます。クリップ止め9枚の要項等の資料と、事前送付しました保護者および児童生徒アンケート報告書でございます。お手元にご覧いただけますでしょうか。

当初送付しておりました児童生徒アンケートの報告書につきまして、記載内容が一部崩れているため、先週再送いたしましたがお手元に届いておりますでしょうか。もし届いていないという方がいらっしゃいましたら、この場でお渡ししますのでお申し出ください。

また、傍聴者へお渡ししている資料につきましては、会議終了後、回収させていただきますので、ご了承ください。

開会に先立ちまして、検討委員の交代について事務局よりご連絡いたします。

稲倉小学校区学校運営協議会代表の委員および木之子小学校区学校運営協議会代表の委員につきまして、本人都合により第3回以降の検討委員会に出席できないため、両委員を解嘱とし、後任へ委嘱することとしましたので、ご承知おきください。委嘱状につきましては、勝手ながら机上での交付とさせていただきます。

次に、検討委員会での委員の立場について、事務局よりご説明いたします。

事務局：

検討委員会での委員の立場についてご説明いたします。

検討委員の皆様におかれましては、引き続き小中学校のあり方についてご議論いただき、答申に向けて検討を進めていただきたいと考えておりますが、「学校運営協議会の代表を、地域の代表と考えてもらうことに不安がある。」といった声もいただいておりますので、本検討委員会での委員の立場について、改めてご説明いたします。

ご存じのとおり、学校運営協議会は、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの成長を考えていく組織です。ですので、検討委員会委員の皆様は地区の代表者としてではなく、地域の実情や学校の現状を理解する住民・保護者の一人として、学校運営協議会の意見を本検討委員会で述べる立場であると考えております。

委員の皆様には、子どもたちのよりよい成長のため、今後の井原市の小中学校のあり方はどのような形が望ましいのか、という視点で発言をお願いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

I 開 会

事務局（司会）：

ただいまから第3回井原市立小・中学校のあり方検討委員会を開会いたします。

なお、本日の会議は公開対象の会議となっており、傍聴者がおられることを申し添えます。

はじめに、開会の挨拶を委員長、よろしくお願いいたします。

委員長：

皆様お疲れ様でございます。

前回は昨年12月でしたので、ほぼ半年ぶりに皆様とお目にかかれる機会になったかなというふうに思います。

本日は、第3回ということで、子どもたちの声や保護者の皆様から寄せられたアンケート結果をもとに議論を行うことになっております。

本委員会の諮問事項も後ほどまた確認させていただこうと思いますが、子どもたちにとってよりよい教育環境をどのように整備していくかという点でございます。

そういう意味で本日は実際に学校生活を送っている子どもさんたち、それからその子どもさんたちを日々成長させておられる、保護者の方々の声を受け止める大変重要な

会議であるというふうに思っております。

一方で、アンケートでは様々な声がございます。多様な意見が寄せられていると思いますが、個々の意見に注目することももちろん大事だと思うのですが、全体としてどのような傾向や、あるいは課題が見えてくるかということを冷静に共有していくことも同様に大切だと思っております。

また、現在の状況だけでなく、今後 10 年後、20 年後に渡ってどのように持続的な教育環境が保たれるかということにも思いを馳せながら、議論を続けていければと思っております。今回もどうぞ忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

2 審 議

(1) 保護者・児童生徒アンケートの結果について

事務局（司会）：

続きまして、審議に入ります。

進行を委員長、よろしくお願いいたします。

委員長：

それでは、これより審議に入ります。

本日は保護者、児童生徒アンケートの結果について意見交換を行い、また、市民アンケートの内容についても検討していきたいと思っております。

はじめに、振り返りの意味も込めて、改めて本検討委員会への諮問事項を確認したいと思います。お手元の第 1 回検討委員会資料の諮問書をご確認いただければと思います。

内容ですが、「少子化に対応した小中学校のあり方について」、そして「小・中学校の適正規模、適正配置について」ということで掲げております。

少し読み上げさせていただきますと、「本市はこれまで、小規模校においては少人数のメリットを生かした教育活動に取り組んできた。しかし、少子化による児童生徒数の減少に伴い、そのメリットよりも課題が上回っていくことも予想される。ついては、今後も児童生徒数の減少が見込まれる中、さらに学校が小規模になることによる教育的な諸課題を踏まえ、子どもたちにとって、より望ましい教育環境を整備する必要が

ある。このような現状に鑑み、井原市における小・中学校のあり方の検討を貴委員会に諮問する。」ということになっております。

このことを念頭に置きまして、引き続き委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

それでは、審議事項の（１）保護者・児童生徒アンケートの結果について、審議を進めてまいります。委員の皆様には事前に事務局から結果が送付され、ご確認くださいと思っています。事務局から結果についての説明をお願いできますでしょうか。

事務局：

保護者及び児童生徒アンケートの結果について、ご説明いたします。

まず、保護者アンケートですが、未就学児・小学生・中学生の保護者 2,797 人を対象にアンケートを実施し、1,869 件の回答がありました。回答率は全体で 66.8%となっております。結果の概要につきましては、報告書の 3～4 ページをご覧ください。時間の都合上、学校再編に関係する箇所のみ読み上げて確認させていただきます。

3. 学校再編に対する考え方

「学校再編をした方がよい」との意見は、未就学児・小学生の保護者では 5 割を超え、中学生の保護者でも 4 割台前半となっている。特に、小学生の保護者では現在の学級数・現在の学級の人数でみてもすべての層で 5 割を超えている。中学生の保護者では現在の学級数が 4 学級以上、現在の学級の人数が 11 人～20 人の方で「学校再編をした方がよい」との意見がやや低くなっている。

学校再編をした方がよい理由は、未就学児・小学生・中学生の保護者のいずれの層においても「幅広い人間関係の中で子どもたちの表現力やコミュニケーション能力、協調性、たくましさなどを育成できる」、「多様な考えや価値観に触れ、学び合い、大きな集団の中で切磋琢磨し合える環境になる」、「子どもの友達が増え、人間関係が広がる」が上位となっている。このことから、保護者は再編の意義として、子どもの成長を支える多様な学習・生活集団の確保を強く期待していることがうかがえる。

一方、学校再編をしない方がよい理由は、未就学児・小学生・中学生の保護者のいずれの層においても「家から学校までの距離や通学時間が増える」、「子どもたちに教員の目が行き届きにくくなる」、「新たな人間関係により子どもの心理的負担が増える」が上位となっており、主に生活面・心理面での不安が中心であることが明らかとなった。

再編にあたり必要とされる配慮について、未就学児・小学生・中学生の保護者のいずれの層においても「子どもにとっての環境変化への対応（人間関係づくり、心身の負担軽減、いじめの未然防止や不登校の予防）」が7割を超えた。次いで、「通学（時間・距離・方法）と安全確保に関する対応」が7割前後を占めており、これらの2点が全体の重要な事項であるとうかがえる。

その他、「一人の子どもが複数回の再編を経験しないようにする」や「保護者・地域住民への十分な説明と協議」の必要性も一定程度指摘されている。

再編に対する不安は、主に通学面と心理的負担に集中していることから、丁寧な支援策の提示と説明が不可欠であることが示唆される。

次に、児童生徒アンケートですが、小学校3～6年生・中学校1～3年生の児童生徒1,750人を対象にアンケートを実施し、1,620件の回答がありました。回答率は全体で92.6%となっております。結果の概要につきましては報告書の2～3ページをご覧ください。時間の都合上、学校再編に係る箇所のみ読み上げて確認させていただきます。

4. 学校再編とクラス替えへの意識

環境の大きな変化である「学校再編」や「クラス替え」についても、子どもたちは期待と不安を抱いている。

学校再編について、自校が他校と一緒にすることについて、小学生の56%、中学生の52%が肯定的である。理由は「にぎやかで楽しそう」「新しい友だちを作る練習になる」といった前向きな意見が上位を占めている。一方で、否定的な層（小学生の40%、中学生の47%）は、「遠くの学校に通うことになったらいやだ」という通学負担や、「苦手な人と同じクラスになるかもしれない」という人間関係への不安を抱いている。

クラス替えについて、中学生の69%が「ある方がいい」と回答している。その最大の理由は「まだ話したことがない人と友達になれるかもしれない」という新しい出会いへの期待である。また、「毎年違うメンバーで過ごすことで成長できる」、「環境が変わると新鮮な気持ちで勉強できる」といった、自己研鑽や精神的なリフレッシュを重視する声も多く見られる。

5. まとめ

総括すると、本市の子どもたちは、「多様な他者との交流」と「現在と同じような学校

生活」のバランスを大切にしている。

成長に伴い、より広い社会性や競争環境を求める傾向が強まる一方で、通学の利便性や個別の人間関係への不安も抱いている。これらの調査結果は、子どもたちが望む教育環境を考える上で、子どもたちが「安心して新しい人間関係を築ける環境」をいかに整えるかが重要であることを示唆している。

結果についての説明は以上です。

委員長:

保護者アンケートと児童生徒アンケート、両方のご説明をいただきました。

保護者アンケートの方では、やはりご自身のお子さんが通う学校のあり方について相応に高い関心をお持ちである。この手のアンケートにしては非常に高い回答率が出ているなど思っております。また、保護者視点での学校教育におけるニーズも捉えることができたのではないかと思います。

それから児童生徒アンケートでは、今の学級数や人数について子どもたちの率直な意見が表れているのではないかと思っております。仮に再編となった場合に期待すること、あるいは不安に思うことも把握できたのではないかなと思います。

まだ細かいところは色々あろうかと思いますが、議論の中でご覧いただければと思います。

それでは、アンケート結果を踏まえまして、委員の皆様の気づきやご意見を伺いたいと思います。

どなたからでも結構ですのでご発言をお願いしますでしょうか。

委員:

資料、アンケートの方も早めに送っていただいて、じっくり見させていただく時間がありました。ありがとうございました。

その中で感想・気づきですけれども、児童生徒アンケートの27ページにまとめのページがあります。その表の下のところに、「現在のクラスの人数1人～10人の児童では、肯定的の割合が61%である」とあります。つまり1人～10人というと複式学級程度かなと思うのですが、そういった児童は61%が肯定的だと。

それとあわせて、今度は保護者の方ですけれども保護者アンケートの16ページの真ん中あたりの1行目です。「小学生の現在の学級数別でみると、現在複式学級の方では『学校再編をした方がよい』との回答が約7割」ということで、複式学級を持っている保護者の方は7割という非常に高い数字になっております。

子どもの方は先ほどの通り6割という高い数字。こういうふうな数字から見ると、少なくとも、複式学級の解消に向けての統合は、進めていくのが必要なのではないかなと。それは、子どもたちにとってのよりよい環境づくりや、よりよい成長のためになるのではないかなということで、気づき、感想です。

委員長:

今ご指摘の箇所は小学校についてでしたが、複式学級に関する課題感が表れているということだと思います。

また、小学生自身も規模の拡大を望む声が肯定的な割合として、61%見られたということですね。

中学生についてはどうでしょうか。

委員:

中学生につきましては児童生徒アンケートの39ページにまとめが出ておりますが、表の下にまとめられています。「現在のクラスの人数が11人~20人の生徒では、否定的回答の割合が肯定的回答の割合を上回っている」ということ。

それから「21人以上の生徒では、肯定的回答の割合が否定的回答の割合を上回っているものの、その差はわずかで拮抗している」ということです。

先ほど小学校は、複式に関しては解消した方がいいというようなことがありましたけど、中学校ではまだどうなのかな。まずは小学校の再編ということ考えた方がいいのかなというふうに感じました。

委員長:

中学生の方は、学校再編への声というのがあまり強く出ているわけではないというご意見かと思います。中学校よりも小学校の方がそういった声は強いのかなというところかと思います。

他の委員の方もどうぞご発言をお願いできればと思いますがいかがでしょうか。

委員:

ちょっと一番基本的なところをお聞きしたいんですが、小学生と中学生の回答率、小学生で92.3%、中学生で92.9%、学校でWebアンケートというふうな形になっていて、7%少々が回収できてないという。これはどういう事情があって未回収があるのですか。大人の場合だったら当然忘れていたとか、いろいろあると思うのですが、未回収が出るというのはどういうことなのですか。

事務局:

未回収の理由ですが、不登校のお子さんもうらっしゃるところが一つ。それから発達段階によっては、家で回答させる学校もあります。例えば小学校3年生とかであれば朝の会等で時間を取るということもあるのですが、発達段階によっては家でアンケートに答えてよというところで回答させている状況もありますので、このような数字になっていると捉えております。

委員:

気になるのは、ちゃんと回答している子たちは基本的な生きる力が備わっているのかなと思うのですが、回答していない子はそれがまだ十分ではないという心配があるのですが、こういうところにどういう光を当てていくかというのが、大事なのではないかなと思ってます。

委員長:

もちろん数字に表れていない状況も、皆様のご意見などを参考にさせていただきながら議論が進められていければというふうに思っております。

他にはいかがでしょうか。今のようなご質問でも結構かと存じます。

委員:

再編に向けて肯定的な意見もある一方、不安に思う子どもたちもいるということがアンケートからわかると思います。と同時に心配されてるのが、放課後児童クラブのことなのですが、そのあたりはどのように進める予定なのかを心配されてる方が結構いて、何かわかることがあったら教えて欲しいです。

委員長:

そのあたり事務局いかがでしょうか。今回のアンケートには触れていないかと思うの

ですが。

事務局:

放課後児童クラブ等については、この会でこうです、と方向性をお話するのは難しいです。

児童クラブについては担当部署が異なりますので検討委員会では回答できかねますのでご了承いただけたらと思います。

委員長:

わかりました。とはいえ、子どもたちが学校に通い、その放課後の使い方も合わせて保護者としては心配なところだと思いますので、そのようなご意見があったということがお伝えできればと思います。

事務局:

ご意見としては共有させていただきます。ありがとうございます。

委員長:

他の方はいかがでしょうか。

委員:

アンケート結果の説明の中で、子どもたちの気持ちとしては肯定的な意見が多いという説明がありました。

選択肢を選んで回答するところについてはそうなのでしょうけれども、個別の一つ一つの意見を見ていくと、どちらかと言うと、今のままの方がいいという強い意見が否定的な児童生徒から出ているというのは伺えるのではないかと思います。肯定的なのは、楽しそう。とか面白そう。何となくその方がいいかなという感じなのです。

この否定的なところの意見を言ったら、やはり友人との付き合い方、例えば再編したときの付き合い方をものすごく不安に思っている子どもたちが多い。

そのあたりの解消というのは、再編したとき、非常に難しくて、どんどん深刻になる要素でもありますので、そういった意見を一つ一つ解消していくべき方向で考えなければならぬというのは感じました。

教育委員会サイドであり方について、ある程度方向性をもし持っておられるのであっ

たら、この検討委員会に、例えばこの学校とこの学校という再編の目標的なところがあるのなら、聞かせておいてほしいなと思います。

そうすると、例えばこの検討委員会の委員が地元へ持って帰って説明をしたときに、大変な混乱を招く場合もあるかも知れませんが、最終的な着地点が見えていた方が検討しやすいのかなというふうに感じます。

委員長:

ご意見ありがとうございます。

人間関係の不安など、もちろん感じていらっしゃる生徒さんもいらっしゃるものがアンケートから出てきます。教育の質もそうですね。子どもたちの安全性というところでもご検討いただければというふうに思います。

また、再編計画がもしあるなら、というご意見がございしますが、この辺りについて事務局としてはどのようにお考えでしょうか。

事務局:

次回第4回検討委員会のときに、1案だけ示すつもりは全くありません。ただ、議論をしていただくときに、何のたたき台もないのにどうですかと言われてもなかなか難しいと思うので、いくつかの案をお示しし、それぞれのメリット・デメリットを話し合っていて、例えばA案がいいとか、B案がいいとかという話を、地域の方のアンケートの結果を踏まえてしていただければと思っていますところです。

次回示していこうと考えております。

委員:

私の認識が少し違うのかもわかりませんが、私はこの会議に出るときに、この会議の意味というのは再編に賛成か反対か、イエスかノーかの方向性を出すための会なのだと考えて参加をしたのですが、今の話を聞いていると、もう1案で具体的な案を出すと、試案を出すというふうに受け取ったのですが、そういうことですか。

事務局:

案といいますのも、最終的な形を必ずその中から選んでくださいね、ということではなく、あくまで話がしやすいように示させていただく。例えば、こういう再編の方向もあるのではないですかということていくつか示させていただいて、委員の皆様から

ご意見をいただきやすいようにしたいということです。

委員:

わかりました。私の認識がちょっと違ったのかなと思って。

事務局:

ここで再編に賛成です、反対です、と言っていただくのではなく、再編するのであればこういう方向でいかないといけないのではないかという、そういうご意見をいただいて、それを答申としてまとめていただくということです。事務局が決めて皆さん聞いてくださいということではありません。

委員長:

委員会としては、方向性を示す答申をするということですね。

事務局:

方向性を答申していただきたい。これでいきますというのを答申してくださいということではありません。

委員:

もう一ついいですか。最終的な案を決定するのはいつ頃の時期になりますか。

事務局:

今のところのスケジュール感で言いますと、答申を受けてそれから計画案を作りますので、この検討委員会自体、もう少し会を重ねる必要があるのではなかろうかという話になれば、当然計画案も後ろに伸びていきます。

ですので、今のところのスケジュール感だけで言いますと、11月か12月に答申をいただいたら、今年度末には計画案を出したい。これは議会でも報告させていただいているところです。ただし、あくまで最速でそのような形になるというふうに思っております。

委員:

先ほどから意見が出ていますが、この検討委員会はその方向性を出すという仕事があると思います。

先ほど児童クラブのお話が出ましたが、答申後は、我々が出ている学校運営協議

会でもそうですし、もちろん児童クラブについても、市長部局と連携しながら、答申後の報告というものを実際どうやっていくかということについては、しっかり連携すると言って欲しいし、よく地元で話が出るのが、もし私の小学校がなくなったら跡地はどうするんだろうということがあります。どうぞそういったことも踏まえて、答申の中にそういった方向性のことが言葉として出ていくのが一番いいのではないかなと思います。総合的に考えていくことではないかなという気がいたします。

委員長:

ご意見ありがとうございます。

この委員会は、小・中学校のあり方ということで方向性を答申することになります。が、子どもの学びの質を中心に、その子どもたちが置かれた環境についても、いろいろ考えないといけないことがあろうかと思います。ぜひ関係部局とも連携を取っていただければと事務局の方にはお願いをしたい。

事務局:

十分な説明ができておらず申し訳ありません。当然そこは市長部局と連携をとりながら、児童クラブは放課後に子どもたちが過ごす場所ですので、しっかり連携をとらせていただこうと考えておりますが、現時点でどうなる予定ですかというご質問にはお答えできかねますということで、ご了承いただければと思います。

委員:

以前の会議のときに質問させていただいたんですが、再編の前提になる、現在各学校の生徒数等が一つの判断基準になるとは思っているのですけれども。

前回もお尋ねしたのですが、現在の小中学校には何十年も前にできた学区がそのまま残っています。出部小学校区は東西にすごく長くなっておりまして、場合によっては、高屋小学校あるいは井原小学校に行った方が都合のいい方もいる。他の学校の方が遥かに近い方も出部小学校にずっと行かれています。そういうことについて見直しがあったり、子どもさんが通いやすい学区を再編したり、あるいは学区をなくすとか、そういう方法もあるのではないかなと思っているんですけど、前回ではそれは柔軟な運用を考えればよろしいのではないですかというふうに提案された方もいたのですが、学区の問題については、教育委員会の方としてはどのようにお考えなのでしょう。

事務局:

そのあたりもぜひ皆様で話をしていただければと思っております。そこまで答申に盛り込んだ方がいいのではということであれば、皆様でご協議いただければと思っています。

委員:

学区の話が出たので少しお話させていただければと思うのですが、やはり小学校というのは学区が必要なのです。フリーでどここの学校にも行けるというようなことは、小学校では難しい。

なぜかという、子どもの数に対して、先生の定数というものが決まってくるからです。

急に何人子どもが増えたから先生が足りずに何人整備するとか、その学校の子どもの人数に対して先生の人数を確保できないという事態も考えられますので、オープンは難しいのではないかなと思います。ただ、学区を決めるというのはできるのではないかなと思っております。

ちょっとマイクを持ったので言わせてもらってもいいですか。

私ちょっとこの3月に色々思うところがありまして。私過去、〇〇小学校に勤めておりまして、3月で2人の6年生が卒業して、休校になりました。

私が令和2年に行ったときに、ちょうど子どもが10人いたのですが、3年後には5人でした。

それで、今は××小学校に勤めているなかで、〇〇小学校や××小学校のことを考えながらこのアンケートを見ていって、〇〇小では複式学級でやっていたのですが、やはり、良いか悪いかでいうと、複式学級ではない方がいいです。

本当に、子どもの発達段階に応じた教育がいいです。複式学級ではAB年度といって、今年はこれにしようというのは、子どもたちにとっても大変ですし、教員にとっても大変です。ごめんなさい、学校の立場で言っていますので。あと子どもも1対1で先生と授業をしたこともあります。

やはり子どもたちというのは、大勢の同級生と学び合うのが、コミュニケーションやたくましさという点で必要ではないかなとは思っています。

学力は良かったですよ。なぜかという、一対一で家庭教師みたいなものでしたから。ただ、絶対的に足りないのが学び合いました。何とかしないといけないと思っ

て、〇〇小のときにリモートで△△小学校さんとさせてもらうこともあったし、□□小学校さんとも授業を一緒にしましたが、やはりリモートでは物足りない。100 回リモートでするより 1 回会った方が良かったという思いがあります。

それで今、××小学校に来ていて思うのが、20 人程度の子どもたちのクラスの規模というのは、ちょうど先生が目も届くし、子どもたちの 1 人 1 人の学力の様子も見てとれる。人間関係も見てとれるのかなと思っています。

そしてクラス替えがあればさらにいいです。2 クラスあれば言うことはないです。

というふうに、僕が考えたのは、理想の学校というのはどのような形なのかと。今の話に出ていましたが、放課後の子どもの居場所もあってもいいし、地域の人が学校の中におられるようなこともあっていいし、そういうことを考えていました。

理想の形というのは、今の井原市の実情では、なかなかすぐには決められませんが、できるだけ近づけるような、子どもたち、そして地域の希望になるような学校が新しく再編できたらいいというのが、私の思いです。

委員長:

実体験に基づく貴重なお話をありがとうございます。

委員:

出部小学校は 388 人いるぐらいで多分井原で一番人数が多い小学校だと思います。

高屋小とか井原小が近い人もたくさんいるのですが、友達のお母さんに聞いたら、高屋との境の地区にいる人でも、出部小学校に通わせる方がいいと言っています。2 クラスあってクラス替えもあるので、そこに通わせたいとか。

初めて出部のその地区にいらっしゃる人は、こんなに遠いとは思わなかったと、そういう人に関しては、学校を選ばせてあげたらいいのではないかと思います。高屋なり、井原なり、近いところがいいとおっしゃる。その家庭の子どもや親に選ばせてあげればいいと思いました。

私達は多分再編の該当の小学校ではないと思うのですが、やはり 2 クラス 3 クラスあるのはとてもいいと思いますし、学校の先生にも聞いたら、とても楽しい、やはりいいですよというようなことを言われたので、2 クラスぐらいあった方がいいのではないかと思います。

委員:

野上小学校はご存知のように全学区から通学できるようになっております。

先ほど委員の方から、どちらかといえば複式でない方がいいというお話があったのですが、野上は全部複式です。野上の子よりも遥かに地区外から通っている子どもが多いのですが、保護者が今、子ども部会というのを立ち上げて、卒業生とか保護者とか、また地域の人の声を集めて、それを冊子にしたものを教育委員会に届けさせてもらっています。

そういった生の声で作った冊子が教育委員会にありますので、皆さんぜひそれを見ていただければと思う。感動的な内容がいっぱいあります。と同時に行動に移してくれた地区外の保護者の人たち、これに感動します。今そういった動きが野上小学校で広がっております。ちょっと紹介をさせていただきます。

委員長:

ありがとうございます。

いくつかの事例、また実体験に基づいた声もご紹介いただきました。

委員:

例えば適正な規模が決まり、それから設置の方法も決まりましたというときに、いくつか案を出しながら、こういう感じがいいのではないかと、先ほど委員が言われたようなイメージに合う編成をしていくということをたたき台にしていくという話をされたと思います。

アンケートの中にもありますが、「1人の子どもの複数回の再編はしないように」というのが、少数意見ではあるのですが、すぐできるからこうしようという方向を決めてしまうと、そのまた何年後に同じことをまた考えていかなきゃいけないというのは、今、井原市が抱えている子どもが少ないという現状から言うとあると思うので、再編するのであれば、やはりこれからの10年後とか20年後も考えていきながら、そこもみんな考えていかなければいけないのではないかなと思います。

今自分たちがこうだから反対だとか賛成だとか、そういう問題ではなくて、考えていけたらいいのかなというふうに思いました。

委員長:

ありがとうございます。

現状と、それから先々の 10 年後 20 年後の子どもたちの育ちを考えてというご意見か
と思います。

それでは、ご質問の方もだいぶ出ているかと思しますので、次の議題に進ませていた
だこうかと思います。

(2) 市民アンケートの実施について

委員長:

審議事項の(2) 市民アンケートの実施についてというところですが、これは事務局
の方からまず説明をお願いします。

事務局:

市民アンケートの実施について、ご説明いたします。

まず、実施に至った経緯ですが、前回の第 2 回検討委員会で「保護者と子どもへアン
ケートを取った後に、地域住民の意見も伺うべきだ」という旨のご発言がありまし
た。そこで、本検討委員会で今後の小中学校のあり方、適正規模・適正配置を検討す
るにあたり、地域の皆様の意見を参考にさせていただくため、市民アンケートを実施す
ることとしました。

目的としては、保護者・児童生徒アンケートの結果を受けとめたうえで、今後の小中
学校のあり方についてどのようにお考えか確認するため。また、地元住民として学校
再編に賛成か反対か、また検討にあたり配慮してほしいことを確認するためです。

実施にあたりましては、広報いばら 6 月号への記事掲載のほか、お知らせくんや井原
放送の文字放送等により周知し、広く市民の皆さまにご回答いただけるよう努めま
す。

市民アンケートの実施についての説明は以上です。

委員長:

今のご説明に対して、もし質問やご意見等ありましたらお願いします。

委員:

市民アンケートをしていただくということで、ありがとうございます。

市民の意見を聞いた中で、市民の納得というところに関しても、その状況を知りながら学校の再編があるということは、大変嬉しいことだと思います。

ただいまの説明の中で広報いばらそれからインターネットというのがありましたけど、対象者が具体的にないような気がするんです。何歳以上とか、いろいろ対象者があると思うんです。具体的な対象はどのような方でしょうか。

事務局：

対象といたしましては、もう既にアンケートにお答えいただいている未就学児・小学生・中学生の保護者以外の方を対象と考えております。

委員長：

それでは構成について事務局からご説明お願いいたします。

事務局：

広報いばら6月号原稿案につきまして、2ページをご覧ください。

広報いばら6月号で、市民アンケートの実施についての周知を行います。上段に本検討委員会のことと、これまで保護者・児童生徒にはアンケートを取ってきたことを説明したうえで、この度市民の皆様に向けたアンケートを実施するものと説明しております。

中段には保護者・児童生徒アンケートの概要と、結果を一部抜粋したものを記載しております。紙面のスペース上、あまり多くの情報を載せることができませんので、特に学校再編に関する結果を載せております。

なお、保護者アンケートの問7は選択肢として「どちらかと言えば、学校再編をした方がよい／しない方がよい」とありますが、このグラフ上では「進めるべき／べきではない」に合算しております。また、未就学児と小学生の保護者は小学校について回答し、中学生の保護者は中学校について回答しておりますが、このグラフ上では合算しております。

若干補足させていただきますが、問7につきましては、全ての小中学校区で賛成が反対を上回っております。もちろん学区によって賛成と反対の差は大小様々で、保護者の9割超が賛成している学区もあれば、僅かに賛成の方が多い学区もあります。た

だ、複式学級があるような規模の小さい学校のほとんどは、賛成が反対を大きく上回っておりました。

中段右側の児童生徒アンケートの問6につきましても、小学生の件数と中学生の件数を合算しております。

下段には回答方法や注意事項を記載しております。基本的には Web アンケートとして実施しますが、希望者には紙による回答も受け付ける予定です。すでに保護者アンケートで回答した方は、今回改めての回答はご遠慮いただきたいと考えております。

市ホームページにつきまして、3～10ページをご覧ください。

広報いばら6月号の二次元コードを読み取ると、市ホームページに飛ぶようになっております。ここでは、市民の皆様が回答するにあたり参考となるよう、保護者・児童生徒アンケートの結果からグラフを抜粋して紹介しております。

これらに目を通していただき、ページ最下部のリンクから Google フォームの回答ページにアクセスしていただきます。

アンケートの質問項目につきまして、11～12ページをご覧ください。質問番号の左横に、質問のジャンルを記載しております。

まず、問1～2では属性について、お住まいの地区や、年齢をお答えいただきます。

次に、問3～6では小学校と中学校それぞれの規模について、望ましいと思う学級数・人数をお答えいただきます。

次に、問7～9では学校再編についてのお考えをお答えいただきます。問7では、賛成か反対かを伺い、問8でその理由を伺う形にしております。また、問9では学校再編を検討するにあたり配慮してほしいことをお答えいただきます。

最後に、問10では自由記述で、小中学校の再編についてのご意見を伺います。

アンケートの質問数につきましては、回答のしやすさを考えると、10～15問程度がよろしいのではないかと考えております。

全体の構成についての説明は以上でございます。

委員長:

質問内容については、後ほどまたお伺いしたいと思うのですが、今のご説明に関して、ご質問やご意見はありますでしょうか。

委員:

アンケートのやり方ですけれども、二次元コードを読み込んでというのは、なかなか高齢の方には難しいような気がします。

たくさんの意見を集めようと思えば、紙ベースのものを広報いばらの中に挟んで置いて、それをまた市役所まで持ってきてください、となればまた大変なので、最寄りというかそれぞれの地区の公民館にお出してくださいというような形で、少しでもたくさんの方が回答できるような形にしてはどうかと思います。

まちづくり協議会でアンケートを取ったのですが、アンケートの内容はまち協で統一されているものですが、やり方としては地区によりそれぞれで、二次元コードと紙ベースと両方にしたら、お年寄りには紙で持ってこられるのです。公民館に結構持ってこられて、逆にびっくりするぐらいだったので、出しやすい方法も考えていただけたらなと思います。

それとアンケート実施のお知らせのところの円グラフですけど、「再編を進めるべき」と「どちらかといえばした方がいい」を合わせて53%となっているのですが、どちらかと言えば、という人もいますから、合算すると誘導しているような気がするのですが、いかがでしょうか。

委員長:

事務局の方がいかがでしょうか。今二つありました。

紙での配布・回収についてございますかということと、円グラフの合算について。

事務局:

紙での配布・回収については少し検討させていただきたいなと。

ご意見としてはよくわかりますし、それも回収率が上がるのかなとは思いますが、ここですぐお答えするのはなかなか難しいところがありますので、検討させていただきます。

それから合算についてですが、細かく分けるよりは、よりわかりやすくという意図があるのですが、そのあたりも委員さんの話で分けた方がいいということになれば分けるということも考えられると思います。その他の委員さんの意見も伺いたい。

委員:

私はどちらかというときちんと分けた方がいいと思いました。先ほど誘導してるみたいに思われると言われたのに賛成です。

また、市民アンケートの中に児童や保護者アンケートではこうでしたと書いてあるのが、一つ一つの質問の中に入れてあるのですけれど、一つずつ入れてあるのは、何か答えを誘導しているように見えると言った方もいます。

委員:

私本当によくわからないんです。自分事として捉えなければいけないのだけれども、これから先井原市の人口がどれくらい減っていくのかというのが多分、市民の方もそこまで頭に持っておられないんじゃないかと思うのですよ。だから、そういう前提があった上での今なのです、ということがあるといいのかなと思ったりはします。

先ほどのご意見に私も賛成で、迷われている人数もあげた方がいいのではないかなと思います。

委員長:

どうでしょう事務局の方。委員のご意見を聞いて、合算しない方がいいのではないかというご意見がいくつか出ているのですけれども。

事務局:

それであれば合算しない方向で。

委員長:

私も合算しない方が、統計的には正確だと思います。

それでは、それぞれ質問の方に進めていきたいと思います。

では、市民アンケートの問1はお住まいの地区を聞いていて、問2は年齢を聞いているのですが、この二つは属性質問なのでよろしいかと思うのですが、問3から一問ずつ確認をしていきたいと思います。

問1～2を飛ばすことについてはよろしいでしょうか？（異議なし）

では、問3について、まずここからご意見があれば確認をしていきたいと思っております。問3についてはいかがでしょうか。先ほど委員の方から各質問の中に保護者アンケートではこうでした、児童生徒アンケートではこうでしたと書いてあるのが誘導に見えるのではないかというご意見があったんですが、そこを踏まえてご意見いただ

ければと思っております。

委員：

ここで保護者アンケートと児童生徒アンケートの結果を出したのは何か目的があるのですか。どちらかというと先ほどからの意見のように誘導にならないかなという気がする。純粋に市民の方の意見を聞くのなら必要ないのではないかなと。

委員長：

この辺りの意図についてご説明いただいてもよろしいでしょうか。

事務局：

第2回検討委員会のときに、アンケートを地域住民にも同時に取って欲しいというご意見と、それから、保護者と子どもにまず取って、その結果をもって地域住民にアンケートを取ってほしいというご意見があって、この会の中で、まずは子どもと保護者にアンケートを取って、その結果を踏まえて市民の意見を確認するという方向でいくと事務局としては認識をしています。

それを踏まえ、質問の中に、こういう結果になっていますが、それについてどう思いますか、という質問構成にさせていただいていますので、それについてご検討いただけたらと思います。

委員：

保護者アンケートについての問4～7というこの表はつけるんですよね。アンケート用紙だけなのですか。

事務局：

アンケート用紙はアンケート用紙だけです。

委員：

アンケートの結果が出てるじゃないですか。4ページから。

事務局：

はい。これはページをスクロールして別に見られるようにしていて、まず広報いばらの二次元コードを読んでもらったら資料の3ページに飛ぶようにしています。

委員：

面倒ですけども、それを見ていただければこの質問の中で何が多かったですというのは入れなくても見られるわけですね。

事務局：

そうですね。表をしっかりと見ていただければ、それを踏まえて回答していただくことはもちろん可能です。

委員：

そうすれば、一番多い回答以外の部分もいろいろな数字が出ているわけなので、この一角を取って最多だけを載せるのはどうかなという気はします。

委員長：

今のご意見は、アンケートの設問文の中に結果を書くのではなくて、アンケートの結果そのものを見せた方がいいのではないかというご意見ですね。

事務局：

事務局としては、問3以降の設問文から最多だけを載せるという文言は全部削除した方がいいと捉えたのですが、合っていますか。

委員：

はい。そうです。

委員長：

単に削除ということですね。アンケートは別に見ることができるから。

委員：

そうですね。アンケートの質問項目の中へは入れないという意見です。

委員長：

他のご意見はございますでしょうか。

委員：

実際そうすると、やりながら元へ戻るという作業はしないから、結局自分の主観を書くだけになりますよね。保護者や子どもたちの意見は載っているのだけど、それをじっくりと見て、アンケートに回答する人が井原市民に何人いるのだろうかという今危機し

ました。

事務局:

それと、紙ベースでの実施を検討させていただきとお答えしましたが、回答用紙を挟むとなると、ホームページには飛びませんのでアンケート結果は見られません。そこも皆様にご検討いただければと思います。

委員長:

二次元コードベースの方と紙ベースの方で見る情報が異なるということですね。悩ましいところですが。

委員:

アンケート結果を踏まえて地域の住民の意見を聞きたいということでこれを書かれたのはわかったのですが、子どもや保護者はどう思っているのかな、というのをいちいち気にしてアンケートをとらないといけないのですか。

委員:

でも今現実問題、保護者と児童は存在しているのだから、やはり重要でしょう。

委員:

その思いを踏まえてという意味ですか。

委員:

では何のために取ったんですかと。児童と保護者に。

委員:

ただ、さっき言われたように、多い数だけを載せるとなると、少ない意見のところも結構大事なところもあるのだけれど、そこはなしになっちゃうなという気がしました。

委員長:

難しいところですね。折衷案として今の市民アンケートの項目ができているような気がいたしますが。そのあたりをバランスとして考えてくださったのだと思いますがどうでしょう。

委員:

結果を踏まえて市民アンケートと言われたのだけど、そうじゃなくて、私個人は、児童生徒それから保護者だけじゃなくて、市民の意見を聞いたらどうかっていうのが、私個人の意見です。

結果を踏まえてというのはなくて、市民の方も学校再編について関心を持っていただきたい。僕はそう思いますね。市民の方が、やるんだなということを知ることが一番大事だと思います。市民の方に周知する。いくらかでも考えていただくというのが大事なのではないかなという。

だから、先ほどの委員さん言われるように、あってもいいのではないかとはいいますが、一番多いところのみ書いてしまうと誘導なんだという気がしないでもないですね。

委員:

この設問の中でというのは本当に誘導していくということになるのですが、この際、面倒ですけど、広報いばら 6 月号に、このアンケートの実施のお知らせの後に、ネットで見られる結果のグラフを印刷したものをつけて広報したらいかがですか。

事務局:

書面の関係で、もうそんなにたくさんのページをこれに割けないというところがあるんです。そこは申し訳ないのですが増やすことはもう難しいです。

委員:

今言ったように折り込むというのは。

事務局:

折り込みが可能かどうか、ここで即答はできないのですが、予算的にも難しいのではないかなと思っております。

副委員長:

広報いばらに折り込む必要があるのでしょうか。非常に大切な結果を市民の皆様周知するのであれば、別途その結果を配布していくということでもよいのではないかなと思うのですが。柔軟に考えればいいのかと。

事務局:

アンケートの紙を広報いばらに入れるかどうかは検討させてください、と先ほど回答させていただいたのですが、例えば、地域住民にアンケートをするときに、広報いばらは世帯に1冊配られるわけで、例えばご夫婦で2人いらっしゃって、それぞれの考えを持っておられる。息子さん夫婦もいらっしゃってという家庭もある。

そうしたら紙ベースのアンケートを、1人が何枚も書くことができますし、当然そこはもう信頼する以外ないのですけども、その難しさもあるのかなと。

委員:

今の1人1枚っていうのが普通のアンケートですけど、まちづくり連絡会議の中では項目があって、4人までチェックができるようになってます。そういったやり方もできる。

事務局:

そこも含めて検討させていただかないと、即答でそれでやりますとは申し上げられません。

委員:

紙ベースが重要なのか、インターネットかというのがありますが、そもそも答えたいと思う人にとってどうなのか。お年寄りが答えないという意味じゃないですよ。

今や90歳の人でもインターネットはできるし、もちろん、二次元コードを読んだりするのですから、紙ベースは検討してもらえればと思うのですが、インターネットなら質問をクリックしたら、そのアンケート結果に飛ぶということができると思うのですよ。

そこからまた戻って、答えて今度は問4に進む。そしたら質問に書かなくても結果が見えるのでしょうか。

事務局:

おっしゃってることはわかるのですが、Google フォームで作成をするので、機能的に難しさがあるのかなと。

委員:

では、アンケートを1クリックではなく、表を載せてその下に質問したら、例えばアンケートの4ページですが、結果が出てますよね。グラフの下に市民の方への質問を

載せる。次に 5 ページの問 5 に行って、この表を見てその下に答え。これは難しいでしょうか。

結果を同時に見られないだろうという話でしょう。

結果も見たいという人も、要は先に保護者と児童を取ったのだから、それを参考にする市民アンケートをするのだから。

ということは、結果の下に、あなたは どう思いますかという質問もできたらどうかと思います。

いろいろ難しいかもしれませんが。この結果の下に質問か、質問を先にして結果はこれですという形にするか。そのあたりは中での話なのですけども。

要は飛ばないのなら、両方見られる方がいいのではないかなという意見です。

事務局:

ありがとうございます。委員さんが言われるのは、言葉としては削除して、上か下かどちらかでいいのだけど、グラフが見られるようにして、答えられるようにした方がいいのではないかというご意見ですね。ありがとうございます。

技術的にできるかどうかまだわからないのですが、そこも検討させてください。

委員長:

おそらく、技術的それから予算的な制約があるかと思いますが、今出てるご意見としては、個々の設問の中で児童生徒アンケートではこうでした、保護者はこうでしたと設問の中に入れるのは誘導になってしまうので避けた方がいいということと、何かアンケートの結果を見せたいということ、それから紙でお答えくださる方にも一定の配慮が必要であるというご意見かなと。

このあたりは、恐らくここでは結論が出ないと思いますので、事務局の方でご検討いただいてもよろしいでしょうか。

事務局:

念のため確認をさせていただきたいんですが、11 ページ 12 ページの問 3 からの最多でしたという文言に関しては削除すべきということによろしいですね。

委員長:

その通りです。

事務局:

紙ベースになったときには、グラフ等が見られませんので、そのあたりについては折り込んで対応ができれば、そこに関しては検討をさせていただきたいのですがよろしいでしょうか。

最終的にどのような形になるかというのはここではお答えできませんので、まず、文言については削除しますというのと、紙ベースのものに円グラフであるとか、アンケートの結果を一つ一つに入れていくというのは検討させてください。それから Web に関しても、アンケート結果が見えてその近くに設問があるような構成にしたかどうかというのも、技術的に対応可能であればそうさせていただくということで、その 3 点でよろしいか。

委員長:

はい。その 3 点だと理解をしております。

委員:

すみません。紙ベースでとは言ったのですが、本当に集計が大変だろうと思いますし、それこそ紙ベースではなくてもいいのではないかというご意見の委員さんもいらっしゃると思いますので、そのようなご意見も多いようでしたら、もうそれでいいと思います。

委員:

いやいや、ぜひ紙ベースでお願いします。

一部は紙でもらって、あとは複写して使ってくれというものをつけてもいいけど、アンケートの設問を広報に折り込んで欲しい。

それはもう、これまでもずっと美星でアンケートしても、必ず出てくるのが、わしはよう答えんぞインターネットで、という方。それ無視するのではないが、そういう意見は大切にしたいと思うので、ぜひお願いをしたい。

委員:

二重に答える人がいるのでは。

委員:

それはネットも一緒ですよ。

委員長:

予算的な制約もあると思いますので、そこも含めてご検討いただいてもよろしいでしょうか。

事務局:

それこそ全市民を対象にしておりますので、仮に複写を家でしていただいたとして、集まる枚数が万を超えとなると、なかなか集計も正直、次回のことを考えると、間に合わせるのが難しいのかなとも思っておりますので、そこに関してもご承知おきいただけたらと思います。

委員長:

ありがとうございます。事務局の方には無理をお願いしますがご検討いただければと思います。今日は、皆様方にご意見をいただいて質問項目については決めておきたいと思っております。

今、この場として、保護者・児童生徒アンケートの結果は質問項目から外すということとでよろしいかと思うのですが、それ以外の点についてこの質問項目でいいかどうかということを確認させてください。

まず問3についてはこれでよろしいでしょうか。(異議なし)

どんどん進めさせていただきますね。

問4はいかがでしょう。これも保護者・児童生徒アンケートと揃ったという形になっております。よろしいでしょうか。(異議なし)

では問5です。このままでよろしいでしょうか。(異議なし)

問6はいかがでしょう？これも揃っております。(異議なし)

その点は基本的に大丈夫そうな感じですね。

では次のページにいきまして、問7ですが、井原市における一定以上の規模を確保するための小・中学校の再編についてどう思いますか。いいでしょうか。(異議なし)

進めるべきと答えた方については、問8-1、進めるべきでないと答えた人には問8-2というふうに分岐をしまいますが、これも選択肢は一緒だと思いますのでよろし

いでしょうか。（異議なし）

では問 9 です。よろしいですかね。（異議なし）

問 10 これはもう自由記述として書いていただくということになりますのでよろしいでしょうか？（異議なし）

それでは、広報いばらの 6 月号原稿というのが今見ていただいている資料の 2 ページ目にございます。この文言について、ご意見や修正案があればということで、先ほど委員からグラフは合算しない方がいいと言われていて、私もそう思うのですが、それ以外の点についていかがでしょうか。

委員：

下線のところに、「今回広く市民の皆さまのお考えをいただくため、アンケートを実施します。回答にあたりましては、保護者・児童生徒アンケートの結果をご覧いただいた上でご回答くださいますようお願いいたします」と書いてあるので、先ほど話していた、結果が見れない人という話になってくると、回答がしにくくなるのが気になったのですがどうでしょうか。

事務局：

アンケート結果を紙面で挟めないとなると、ここについては文言を変えていく必要があるのかなと。ただ Web の場合は見れますので、Web で答えられる方には要るのかなと思います。そのあたりもまた難しさが出てくるのかなと思います。

委員長：

私からで恐縮なのですが、アンケート結果自体を見れる二次元コードもここに併せて掲載するという事は可能なのでしょうか。

事務局：

それは可能ですが、2 ページの二次元コード、今は読めないようにしていますが、二次元コードを読んでいただいたら 3 ページに飛びます。

ですので、今の構成であれば、3 ページに飛んでいただいて更にアンケート結果を見なければ、3 ページの一番下のところをクリックしていただいたら、アンケート結果には飛びますし、次のページの一番上の児童生徒アンケートの結果はこちらっていうのをクリックしていただけたら、詳しいところに飛ぶことは可能です。

3 ページに飛びましたら、ずっとスクロールしていただいたら 4 ページ 5 ページも見られます。ただ、先ほど委員さんからもありましたように質問に一個一個グラフを載せるということになったときの構成として、どうするかというのはまた問題になるのかなと思うんです。

アンケート結果を見ていただき、さらに回答ページへ飛んでいただく予定だったので、どのような配置にしていけるのかというのは技術的に可能かどうかも含めて考えないといけないと思っています。

委員長：

わかりました。私が先ほど委員のご説明を聞いて思ったのは、保護者・児童生徒アンケートの結果をご覧いただいた上でということに、その結果が見れる二次元コードがすぐあると飛びやすいのかな、と思った次第でございました。

これは先ほどの件とあわせてご検討いただければと思います。

委員：

紙ベースの場合は、この紙ベースのアンケートの前に紙ベース用のアンケートを作ればいいんですよ。これは広報に載せて、インターネットで答えてもらう方の原稿ですよ。紙ベースをもし付けるなら、紙ベースの人もアンケートの表をそれ用に直せばいいんだよね。

これは、今の構成はインターネットで答える人用ですよ。だから紙ベースだったら、11 ページの質問になりますよね。紙はその前にこういうアンケートをとりますというのを別にすればいいのではないかと。

事務局：

紙ベースのアンケート結果をつけるということですね。

委員：

アンケート結果はつけられると思います。だから、この 3 ページ、2 ページの市民アンケートのお知らせというのを、紙ベース用のアンケートの答えをつければいいのでは。

事務局：

2 ページに関しては広報いばらの原稿なので、ここは広報いばらに入っていきます。

委員:

なんだけど、別紙で、紙ベースのアンケートも検討するんだけど、するんでしょ。この最初のページにアンケートの2ページを紙ベース用に変えればいいだけです。

この段落のアンケート実施をしますと書いてあるのは、保護者と児童のアンケート結果が見られないのに書いてあるから、紙ベースの人が不便だろうという意見だったのでしょうか。

事務局:

紙ベースのアンケートは11ページ、12ページだけではなくって、4ページ5ページとかのグラフを見られるように、という話だったと思うのですが、それを付けるということについて検討はしていくという話だったと事務局として理解をしております。

委員:

2ページのこの段落はそのままいいのでは。紙ベースをつけた場合はアンケート結果をつけるでしょう。

事務局:

ただ、つけられない場合に関しては、ここの文言を検討するような必要があるということです。

委員:

では、下線はそのままでもいいのでは。

事務局:

つけられない場合は、この文言を考える必要があるということです。

委員長:

一旦整理をしたいのですが、今これはインターネットベースで答えていただく方を想定して作られています。

元々の事務局案としては、紙による回答をご希望の方は学校教育課で回答書を配布します、ということでしたので、その一部の希望者の方に配布をするという方向でいいのか、それとも広く市民の方に配布をしますということにするのか、というところはいかが思われますか。

先ほど委員からは、美星地区では配布をしていただきたいというお話があったと思うのですが、もしそれが地区別に状況が異なったら、それは対応できるものでしょうか。

事務局:

この地区はつけてこの地区はつけないというのは難しいので、井原全域でつけるのかつけないのかというところなのですが、紙で回収するとなると、膨大な数になるであろうと予想されるので、ネットでの回答を基本とした提案をさせていただいています。ですので、検討させていただくのですが、広く紙で配布して各地区で回収してそれをまた回収して、そこから仕分けして集計していくとなると、時間も労力もものすごいことになるので、難しいところがあるのかなと思っているところです。

副委員長:

すみません。市民アンケートに関する情報量が膨大になってきているので申し上げにくいのですが、先ほどあり方検討で学校の統合のことについて、何度も繰り返すようなことが頻繁にあっては子どもたちに負担だというご意見があったと思います。

市民アンケートを実施するときに、今どの程度地域の子どもたちが減少しているのかということを市民の方が知っているのと知らないのとでは、回答に大きな差異が出てくるのではないのかなと。

第1回の会議でお配りくださったデータを見ますと、私も非常にびっくりしました。おそらくこの現状を、市民の皆様はあまり把握されておられないのではないのかなと思うのです。

把握されてない状況で回答するとなると、市民はやはり地域に学校を残したいです。第2回目の会議のときもありました。私にもそういった思いはございます。けれども、加速度的に子どもたちが地域から減少しているという現状もございます。

そこを踏まえるか踏まえないかでずいぶん違う。それによってはまた再検討しなければならないということが先々起こってくる可能性も高くなってくるのではないかなと思いました。

何らかの形でこの情報を市民アンケートに添えて提示することによって、正確な市民のご意見、ご回答を得たいなと思い、ご意見しました。

委員:

今ご質問しようとしたことを副委員長さんがおっしゃったのですけれども、今までの資料に各学校の将来的な推移の表があったんですが、あの表あたりを示して、これからアンケートを取るときにこの現状をわかった上で回答しないと的確な回答にならないような気もしていました。

委員:

広報は１ページですよ。２ページあればいろいろな情報も見せられるけど、１ページですよ。

事務局:

１ページです。さきほど人口減少の表を入れた方がいいのではないかというご意見だったと思います。実はこの中段のところも、最初の草案では人口減少の表を入れていました。

ただ第２回で、今いる子どもたち、そして保護者の考えを知っていただいて、アンケートを答えていただくというように、第２回はそういう方向になったと思うので、紙面の大きさ的にはどちらかしか入らないね、という話になって、今回こちらを提案させていただきました。

もちろん、事務局として人口減少のところも必要ではないと考えたわけではありませんが、おっしゃられることはよくわかります。

ですが、紙面上なかなか難しいというところがあります。ただ、そこを知っていただくという重要性については、委員の皆様のご意見をしっかり受け止めたいなということで、確かに地域の皆様にとってはそっちの方が重要なかもしれないというのは感じたところなのですが、これは私見なので、事務局で検討していく必要があると思っています。

委員長:

複数の委員さんからご意見が出ておりますように、人口減少の話はあった方がいいのかなというところはあると思います。何か入らないですかね。

委員:

最初の会議でいただいた資料の中に人口減少の推移がありますが、そこに「平成 27

年度から令和 7 年度の間で 28.9% (923 人) 減少し」というような文言があります。

それをグラフとしてではなくて、言葉として入れるということができないでしょうか。このグラフの上に市内の児童生徒数は大きく減少していますというような前書きがあるのですが、グラフではなく言葉で入れる。

事務局:

事務局の方で相談をしながら考えさせていただきたいのですが、アンケート結果は 2 次元コードで飛んでいただいたら、詳しいものも見れますし、例えば中段のところをやっぱりその数だけではなくって、折れ線グラフで推移を持ってくる方が、子どもたちの数がどんどん減っていくというのがわかっていただけるのだったら、そちら持ってくるという方法もあるのかなと。そこについても検討していく必要があると思います。

委員:

ホームページには載ってるわけですから、見ようと思えばホームページで見られるわけですね。ただ、紙で答える人がホームページに行くかどうかということにはなります。紙だと難しいと思います。

委員:

私も今話を聞いていて、このアンケートをなぜ取るのかなというのと、やはり子どもの減少の方をここに載せて、2 次元コードで飛んだときに保護者アンケートのグラフが見れた方がいいと思うので、推移の折れ線グラフを載せた方がよりわかりやすいかなと思います。

委員:

皆さんのご意見に私も賛成です。保護者アンケートと児童アンケートは繰り返し載せてある状態ですので、人口減少の方を強調した方がいいかなと思います。

委員長:

このような意見が委員の皆様からは出ているというところで、ここは事務局の方でご検討いただいてよろしいでしょうか。

事務局:

検討させていただきます。ありがとうございます。

委員長:

そうしましたら、アンケートの検討についてはここまでとさせていただきたいと思います。

アンケートのスケジュールについて、事務局の方が準備してくださっていると思いますので説明をお願いいたします。

事務局:

それでは、市民アンケートの今後のスケジュールについてご説明をいたします。

本日は検討委員会でいただいたご意見を取りまとめ、事務局で修正した後、委員長・副委員長にご確認をいただいた上でアンケートを実施させていただきます。

なお、広報いばら 6 月号につきましては紙面のレイアウト上、先ほども何度も話題に挙がりましたが、載せられる情報は限られておりますので、事務局で調整させていただきますのでご了承ください。

また、予定では 6 月 15 日の広報いばら 6 月号の発行に合わせて、市のホームページで回答ページを公開して、アンケートの回答の受付を開始する予定です。

回答期限は 7 月 10 日までとして、締切後集計に入りますが、事務局としては紙ではなく Web ベースで想定しておりましたので、アンケートの結果につきましては第 4 回の検討委員会でお知らせしようという計画だったのですが、紙をそこまで入れると、不可能に近い場合も十分考えられるというところで、なかなか難しいところになります。そこも含めて検討させていただきたいと思っております。説明は以上になります。

委員長:

あくまでも Web ベースでのスケジュールということでご説明をいただきました。

中身については本当に悩ましいところではありますが、いろいろな制約を乗り越えられなければ、紙については事務局の原案通り、窓口で配布するという形もあり得るということですね。

事務局:

そうなる可能性もあると思っております。

委員長:

委員の皆様そのあたりご了承いただけますでしょうか。紙でもお届けをしたいのだけれども、やむを得ないというところかと思います。

(3) その他

委員長:

それでは全体について、もし何か伝えておきたいということがあればお願いいたします。

委員:

資料の保護者アンケートの4ページ真ん中あたりで、「複数回の再編を経験することのないように」それから「保護者、地域住民への十分な説明と協議」の必要性も一定程度指摘されています。

この保護者・住民への十分な説明と協議の必要性といったところでこの市民アンケートを考えてくださったんだと思います。

その中で、就学前の検討委員会もあったと思いますが、この後のスケジュールは検討委員会で答申をまとめて事務局の方で再編計画を立てて、今説明会を每晚されておるんだと思いますけれども、この小中のあり方についてもそういうスケジュールで考えておられるのでしょうか。それと、就学前の説明会の感触であるとか。

そういった流れについて、作法があるのだと思いますけど、教えていただければと思います。

事務局:

質問としては、幼稚園の方は説明会を今しているが小中学校のあり方についても、計画の後に説明会をする予定なのか、という質問でよろしいでしょうか？

委員:

まずはそれで、その就学前の説明会の流れが良かったかどうか、どう思われてるかも伺いしたい。

この後の小中学校についても同じ流れを踏襲されるのであれば同じような流れだと思

うし、住民への十分な説明と協議はどのタイミングがいいのかということも考えておられれば。

事務局:

就学前につきましては、答申をいただいて再編整備計画を立てまして、教育委員会には5人メンバーがおりますが、教育委員の方にもご協議いただき、その後、議会で報告をして、それから総合教育会議という市長が招集する会議を経て、正式に策定したものを令和8年2月に公表したという形です。その後、地域への説明会を5月12日、大江地区を皮切りに始めているところです。

基本的には、今のところは小中学校に関しても同じようにと考えていますが、やっていく中で順番ややり方は変わっていく可能性はあると思っております。

委員:

説明と協議がどういうタイミングであるのか、自分たちもよくわからないですけど皆さんはどう思われるか。市民アンケートをされることで地域住民の意見を捉えていくのだと思いますけど、その後の持って行き方が、そのアンケートをもとにここで答申をまとめて計画が出た段階で説明するのがいいのか、計画を出される前に説明されるのがいいのか、と思ったりもしています。

事務局:

ありがとうございます。非常に貴重な意見だと思っておりますので、例えば、答申をいただいて、教育委員会で計画案を作成しましたと。案の段階で、地域に説明に行って「これが案です、どうでしょうか」と意見交換会というような形でご意見をいただいて、議会や総合教育会議を経て、策定・公表というような流れということも十分考えられるのかなというふうに思っております。

委員:

先日県主で幼稚園について説明会があって参加させていただいたのですけれども、これとこれについての質問はやめてくださいね、幼稚園の教育のことだけについての説明ですよ、というような感じでありました。

もう変更が不可能という段階で説明会があっても、県主だけかもしれないけれども、地域として諦めているというような感じがありました。結果が出てしまう前に、こういうふうに進めているのですけれども、どう思われますか、というような説明会であ

って欲しかったなというのは思いました。

委員:

関連ですけれども先日県主であって、その後大江もあったと思うのですが、今度高屋でそういう会議がありますので、その結果をお聞きしたりするのですが、すごく評判が悪かったです。

何のための説明会かと。こんなことだったら、してもら必要はなかったと。ほとんど決まっていたというようなことをおっしゃる方が多くて。高屋でもそんなやり方でするのだったら、もう来てもらわなくていいのではないかという意見が結構ありましたので。それから、説明会の時間が1時間に限られていて、市の説明が30分で、その後の質疑応答は30分以内にしてくださいという、すごく制約された中で設定されて、いろいろお聞きした中では、評判が悪かった会だったなと思っております。

今度高屋で説明会があるんですが、ぜひ改善していただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

事務局:

申し訳ありません。ほとんど私が説明させていただきましたし、質疑応答にもお答えさせていただいて、意味がなかったと思われる説明会だと、よくないというふうに私は捉えておりますので、改善できることがあれば教えていただきたいと思うのですが、会場の押さえの段階で、6時半から7時半で設定させていただいております。再編整備計画についても、既にしっかり読んでくださっている方もいると思うのですが、なかなか目を通す時間もなくてという方も来てくださっているという認識ですので、補足的な説明も入れながら、30分かけて説明させていただいて、その後質問を30分受けているような状況です。

小中学校のあり方についての質問に関しましては、今こうやって議論していただいている中でどうなるんですかと質問をされてもお答えできませんので、それについてはご遠慮くださいと言わせていただいております。

その中で、どのようなところがよくなくて、どのような改善をした方がいいかというのを教えていただけると今後の参考にできますので、ぜひ教えていただきたいです。委員さんをお願いします。

委員:

私が出席していたわけではないのですけれども、大江の会議に出席なさった方が、決まっていることなので、理解してくださいと。

皆さんの意向を聞いて反映してもらおうということがなかったというようなことをお聞きしています。

事務局：

大江地区では、ご理解いただきたいという言葉を使わせていただきながら説明した部分もありますし、ご要望として承りますとお答えした内容もございます。ですので、そのような捉えられ方をしたのであれば説明が不十分だったと思いますので改善させていただきたいと思いますし、内容によっては検討させてくださいという説明をした地区もありましたので、そのように聞こえたということについては申し訳ないと思いますが、そのようには考えておりません。

委員：

美星の場合、多くの方は時間が少ないと言ってます。

事務局：

美星地区の場合は時間を切らせていただいたというところがあるのですが、教育の平等とはどういうことなのですか等という質問には、なかなか具体的には答えにくいです。

再編整備に関する質問であれば、事務局の想定としては30分あればご質問にお答えすることは可能なかなという思いで設定をさせていただいています。

委員長：

それでは本日の審議は終了させていただこうと思います。

本当に活発な意見交換をありがとうございます。

これで事務局にお返しいたします。

3 そ の 他

(1) 第4回検討委員会について

事務局（司会）：

熱心にご審議いただきありがとうございました。要項に従いまして、3 その他です。
次回第4回検討委員会について事務局からお知らせします。

事務局：

次回第4回検討委員会につきましては、令和8年8月に開催予定です。

日程は決まり次第、お伝えさせていただきます。

4 閉 会

事務局（司会）：

閉会に移ります。閉会の挨拶を副委員長、よろしくお願いいたします。

副委員長：

本日もご多用の中にも関わらず、時間を超過しての活発なご意見を述べてくださいまして本当にありがとうございました。

委員の皆様方には引き続きでありますけれども、地域の実情やご意見を吸い上げて、またこの場にお持ちいただきたいと思っております。

また、事務局の方々には、日々の実務に加えまして、膨大な作業をお願いすることになりました。本当に申し訳ないのですが、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

事務局（司会）：

以上をもちまして、第3回井原市立小・中学校のあり方検討委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

16：10 終了